

## 歩こうかい 1 月例会(通算 370 回)



### 三英傑ゆかりの地を訪ねる①



### 岐阜の街をあるく

2022 年 1 月 12 日(水)

天気: 晴れ時々小雪 ・参加者 14 名 <14,000 歩>

J R 岐阜駅・・・三社まいり (金神社・ <sup>こがね</sup> 檀森神社・ <sup>かしもり</sup> 伊奈波神社)・・・
<sup>しょうぼう</sup> 正法寺・・・岐阜公園・・・崇福寺・・・十八楼 (総会・新年会)

年が明けて、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染が愛知・岐阜エリアも急拡大してきたが、人出の少なくなる時期になり、コロナ対策を十分行い予定通り開催。数日前から強い冬型が続き、時々小雪がちらついて冷たい北風が頬を掠めたが、陽射しは暖かく快適な一日となった。

今年度(事業年度は 1 月～12 月)のテーマは「三英傑」で、初例会は織田信長ゆかりの美濃国岐阜市。

JR岐阜駅へ 9 時 30 分に集合し、再入会の河野さんを紹介の後、金運招福・商売繁盛の御神徳あらたかな神として信仰を集めている金神社へ。仙田さんと合流し参拝を終え、20 分程歩いて檀森神社に着く。伊奈波神社の主祭神ニシキイリヒコノミコトと、金神社のヌノシヒメノミコトの間に生まれたのが、檀森神社の主祭神イチハヤオノミコトといわれ、これらの神社が親子関係であることから、この三社をまいると家族そろって幸せになれるといわれるようになり、三社まいりは江戸時代から続く伝統行事となった。檀森神社付近には織田信長が開いた楽市楽座で有名な美蘭(みその)の榎があり、境内には信長神社が建てられている。さらに 20 分程進み伊奈波神社に到着。元旦には午前零時を迎える前から長蛇の列ができるほどの参詣スポットで、岐阜市で最も多い参拝客が訪れる。参道には数軒の屋台が残っていて、御朱印所には参拝を終えた人達が御札や御守りを求め並んでいた。



檀森神社境内の信長神社



伊奈波神社の階段を登る

伊奈波神社の参拝を終え、20分程歩いて日本三大仏の一つ岐阜大仏・正法寺を経て、岐阜城の下に広がる岐阜公園へ。園内を歩き、公園入口の信長像と遠く見える岐阜城をバックに集合写真を撮った後、十八楼を通過し、長良川を渡って織田家菩提所の崇福寺に向かう。



20分程で崇福寺に着く。堂内には信長の崇福寺を保護する禁制書や絵巻、数多くの古文書が陳列されており、しばし見入る。本堂の血天井は岐阜城が落城した際の床板を天井に張ったもので、今でも血痕が付着している。堂内を回った後、本堂裏の信長公父子の墓に手を合わせる。



本堂の血天井





よく手入れされた石庭



信長・信忠父子の墓

崇福寺の参拝を終え、来た道を引き返して十八楼へ 12 時 40 分頃到着。年次総会の後、新年会の楽しいひと時を過ごし、14 時頃解散する。



外庭と本堂



手前に鶴飼屋形船、対岸に長良川国際会議場



記：奥村正忠